



1934~1992

森 万紀子 (もり まきこ)

作家。本名松浦栄子。「単独者」「黄色い娼婦」が芥川賞候補となる。書き下ろし長編「雪女」が第8回泉鏡花文学賞を受賞した。密度の濃い個性派作家として戦後の山形のもっとも優れた女流作家と評されている。



1906~1961

庄 司 総 一 (しょうじ そういち)

作家。戦時中の長編「陳婦人」が大東亜文学賞を受け、その劇作には杉村春子、東山千栄子等が出演し絶賛を受ける。昭和19年妻の郷里鼠ヶ間疎開し、県内の文士と交流した。



1910~1979

斎 藤 栄 治 (さいとう えいじ)

ドイツ文学者。文学博士。旧酒田中学、旧山形高校を首席で通し抜群の学才を示した。昭和32年東大教授に就任し、論文「ヴィラントとゲーテ」「若きウエルテルの悩み」などを発表しゲーテ学者としても知られていた。



1907~1977

斎 藤 信 治 (さいとう しんじ)

哲学者。文学博士。東北大卒業後エジプトのカイロ大学に回教研究のため留学する。戦後は北海道大学の教授、中央大学の教授を努め、昭和32年文学博士とる。昭和36年学術研究のため欧州諸国を歴訪した。



1907~1980

佐 藤 十 彌 (さとう とうや)

詩人。商業デザイナー。詩を作るかわら映画館の看板、宣伝美術に従事し「骨の木」の同人となってこれに執筆、戦後もたびたび詩集を刊行、「みちのく豆本」の装丁を担当した。斎藤茂吉文化賞、酒田市文化功労賞を受賞した。



1904~1977

富 樫 廣 三 (とがし こうぞう)

団体役員。農村指導者。大正10年庄農を卒業後、大高根青年道場に入り、開拓指導者の加藤寛治に師事する。各農業団体の会長を歴任。昭和22年「農村通信」を発刊、農業専門誌として現在も発刊が続けられている。

個人蔵	●スナップ写真	個人蔵	●山形教育「生原稿」外	個人蔵	●武蔵野
個人蔵	「農村通信」外	個人蔵	「山形教育」生原稿	個人蔵	●本間 舜華
個人蔵	村社和泉神社誌	個人蔵	CD	個人蔵	外原稿
個人蔵	読書の思い出(斎藤信治共著)	個人蔵	LPレコード	個人蔵	色紙短冊
個人蔵	●富樫 廣三	個人蔵	掲載雑誌類	個人蔵	書道具一式
個人蔵	著作本	個人蔵	酒田市功労賞表彰状	個人蔵	●秋沢 猛
個人蔵	落款印 外	個人蔵	●岸 洋子	個人蔵	著作本
個人蔵	色紙	個人蔵	白衣観音色紙(自筆) 外	個人蔵	古伝書 外
個人蔵	●佐藤 十彌	個人蔵	酒田市民章プロンク像	個人蔵	生原稿
個人蔵	大川周明よりの葉書	個人蔵	オヘアスコフ	個人蔵	●本間 順治
個人蔵	カイト通信 生原稿 外	個人蔵	自筆楽譜	個人蔵	フロンソウ像頭部
個人蔵	色紙	個人蔵	●加藤 千恵	個人蔵	●本間 順治
個人蔵	●斎藤 信治	個人蔵	著作本 外	個人蔵	絵
酒田市民立図書館蔵	著作本	個人蔵	色紙	個人蔵	落款印 外
酒田市民立図書館蔵	●斎藤 栄治	個人蔵	●斎藤 勇	個人蔵	●根上 善治
酒田市民立図書館蔵	著作本	個人蔵	時絵筆 外	個人蔵	机
酒田市民立図書館蔵	●庄司 総一	個人蔵	色紙	個人蔵	●後藤 善治
個人蔵	「雪女」「囚われ」生原稿 外	個人蔵	●斎藤 勇	個人蔵	風山伊藤馨
個人蔵	入稔鏡(泉鏡花文学賞)	個人蔵	時絵筆 外	個人蔵	出羽三山史
個人蔵	サイン入り著作本	個人蔵	推漆帯止め 不老樹	個人蔵	酒田市史 生原稿
個人蔵	●森万 紀子	個人蔵		個人蔵	●阿部 正巳

おもな展示資料目録

【第109回企画展示】

第6回 酒田の人物資料展



昭和40年頃 NHK「素人のど自慢大会」にゲスト出演の岸洋子さん
司会、宮田輝アナウンサー (個人蔵)

開催期間 平成12年2月11日(金)~平成12年4月17日(月)
 開館時間 午前9時~午後4時30分
 休館日 3月末まで月曜日、4月以降は無休
 入館料 大人100円 児童・生徒50円
 65歳以上の方と身体障害者の方は無料です。

酒田市立資料館

酒田市一番町8-16 TEL(0234)24-6544 FAX(0234)24-6544

◆開催にあたって◆

この度、企画展で第6回の「酒田の人物資料展」を開催することになりました。酒田は北は秀峰鳥海、東は奥深い出羽山地、南には信仰の山、出羽三山を望み、そして西は渺茫万里の日本海に面し、中を山形県の母なる川最上川が四季水量豊かに沃野を潤す天恵の地勢風土の中にあります。

少年期あるいは多感な青春時代又は人生の活躍の壮年期そして実りの晩年の時をこの地で過ごされ、学問、芸術、文学その他各方面で明治から平成まで活躍されたふるさとの先人16名のひととなりと業績の一端を展示・紹介します。

激しく変動の多い時代の中で何を考えどのように生きたか、またふるさととの関わりなどについても考え合わせながら御覧頂ければ幸いです。

本企画展の開催にあたり、掛け替えのない貴重な品々を御出陳頂きました御家族の方々をはじめ、関係各位に厚く御礼申し上げます。

酒田の人物資料展・プログラム

- | | |
|---------------------------------|-----|
| ① 明治の青年群像(1880年代に生まれた人々) | 17人 |
| ② 郷土史を彩る人々(明治以前) | 25人 |
| ③ 地域社会の近代化に尽くした人々(1) | 18人 |
| ④ 地域社会の近代化に尽くした人々(2)
(明治～昭和) | 16人 |
| ⑤ 地方自治に尽くした人々 | 30人 |
| ⑥ 文化史を彩る人々(明治～平成) | 16人 |

展示者のプロフィール



1879～1946

阿部 正巳 (あべ まさき)

郷土史家。酒田市史、山形県史蹟名勝天然記念物調査に携わる。昭和6年城輪の柵跡の発掘調査には指導的役割を果たした。多くの論文著書は、郷土史の貴重な基本史料となっている。



1894～1991

本間 舜華 (ほんま しゅんか)

漆芸家。本名健蔵。大正14年パリ万国装飾美術大博覧会に出品して銀賞、フィラデルフィア大博覧会にも出品して1等賞を受賞した。伝統的な日本の漆工芸美術として海外からも高く評価された。



1878～1938

後藤 善治 (ごとう ぜんじ)

農業。明治26年から昭和9年までの42年間、1日も欠かさず農作業などを記録しつづけた。この記録は庄内農業の発展過程を知る貴重な資料として、農林省でこの記録を「善治日誌」として出版された。



1904～1987

斎藤 勇 (さいとう いきむ)

歌人。旧中学、大学の在学中から短歌に親しみ、卒業後も「短歌研究」の編集に当たった。戦後は高校に勤務のかたわら「黄雞」を主宰し多くの歌人を育てた。



1895～1981

根上 富治 (ねあがり とみじ)

日本画家。東京美術学校(東京芸大)在学中に帝展に初入選、大正11年「飼鷹」同14年「群鷄」が特選となり、一躍日本画壇の注目を集める。戦後は日展の審査員として活躍した。



1904～1991

加藤 千恵 (かとう ちえ)

音楽家。酒田ボーカリストスタジオを開いて、音楽の指導普及に努め、また市民によるオペラを上演し大成功を収めた。酒田市の音楽のレベルの高さを認識させ、文化の向上に大きな貢献をした。昭和62年酒田市名誉市民となる。



1904～1991

本間 順治 (ほんま じゅんじ)

日本刀研究家、文学博士。薫山、刀剣研究では日本最高の権威者。戦後、刀は凶器とみなされ、すべての刀が接収される運命にあったが、本間氏の尽力で日本の伝統美術品として認めさせ、日本の刀剣を守る大任を果たした。



1934～1992

岸 洋子 (きし ようこ)

声楽家。東京芸大卒業後、NHKオーディションに合格。昭和39年「夜明けのうた」で日本レコード大賞、昭和45年「希望」で再び日本レコード大賞を受賞して、シャンソン歌手の地位を不動のものにした。



1906～1988

秋沢 猛 (あきざわ たけし)

俳人、教育者。旧制商高時代より「ホトトギス」に投稿して入選。戦後「氷海」を主宰して俳句指導に当たり、また山形県俳人協会の設立に尽力、初代会長として県俳壇の基礎を固めた。昭和54年、斎藤茂吉文化賞を受賞した。



1935～1990

成田 三樹夫 (なりた みきお)

俳優。大学を中退して俳優座に入所。卒業と同時に大映と専属契約を結び、アクション映画で人気を博し、ニヒルを感じさせる男といわれた。